

記憶に残る1年に。

合併70周年記念事業

寄居町では、駅伝競走大会を皮切りに令和6年度から7年度にかけて合併70周年記念事業を実施しました。町の封筒や広報誌、愛のりタクシー等、さまざまな事業に記念ロゴマークを添えて、合併70周年を盛り上げました。寄居玉淀水天宮祭では、合併70周年を記念してプロジェクションマッピングを実施。玉淀の岸壁にロゴマークが大きく映し出され、合併70周年を来場者に強く印象付けました。

ここでは1年間にわたり実施した合併70周年記念事業の一部を時系列で振り返ります。また、寄居町にお住まいの皆さん、そして故郷を離れても寄居町を思う皆さんに思い出深いエピソードをお伺いしましたので、併せて紹介します。



豊かな魅力が“ぎゅぎゅっと”詰まった
寄居町合併70周年記念ロゴマーク

70周年の文字デザインに、水の郷・寄居町のシンボルである荒川(ブルー)、氏邦桜(鉢形城の桜・エドヒガン)をはじめとした町内を華やかにする桜(ピンク)・特産品のみかん(オレンジ)を図案化し表現しました。

2024

寄居町合併70周年記念
ロゴマーク使用開始

10.01

Episode 04



小淵 愛 さん
山崎(用土1出身)

私は、都内で動物病院やトリマーなどの経験を積み、平成28年に寄居町でペットサロンを開業しました。子どもの頃から動物が好きで、今では毎日動物に囲まれながら、忙しくも充実した日々を過ごしています。寄居町に戻ってきたのは、ひとえに地元が好きだから。小・中学校の時は、用土の体育祭に参加するのがとても楽しみでした。近所の皆さんが集まると途端に熱くなり、最後には「やってよかったね」と皆さん笑顔になります。特に障害物競走が好きでした。おばちゃんたちが作ってくれたお弁当もとてもおいしかったです。個人では犬の写真を撮影したり、写真展を催したりして活動しています。SNSの写真を通して、寄居町を紹介することもあります。今後もふるさとの祭典市などの地元のイベントにも積極的に参加し、生まれ育った寄居町をもっと盛り上げていきたいと思っています。

Episode 03



山崎 久雄 さん
栃谷

私は中学3年生の時、第2回合併記念駅伝競走に参加しました。小前田から用土までの区間を走り、折原中は準優勝だったと記憶しています。私の陸上人生はそこから始まりました。高校生の時には、インターハイに出場。卒業後は東京の企業に就職。国体には埼玉県代表として6回出場、昭和40年には、岐阜国体の5000mで優勝しました。公民館で優勝祝賀会を開いてもらったことはいい思い出です。マラソンでは、昭和41年にウィンザーマラソン(イギリス・ロンドン)に日本人代表3人で出場し、私は8位に入賞しました。パスポートが簡単には発行されない時代でしたから、特に記憶に残っています。第16回青森東京駅伝では、円谷幸吉さん(東京オリンピック(昭和39年開催)メダリスト)からたすきを受け取り、1着でゴールしました。27歳で競技から引退しましたが、寄居町の駅伝には10回以上参加しました。今でも毎年開催される駅伝を楽しみにしています。

02.11

寄居町合併70周年

02.09

第70回記念寄居町駅伝競走大会

2025



ウエディングパネルを設置

お二人の門出を祝しウエディングパネルの前で記念撮影。広報より風の画像をプレゼントしました。



小山司さん

第70回記念寄居町駅伝競走大会

この駅伝大会は、昭和30年に寄居町が合併したことを記念して「合併記念駅伝競走」として開催したのが始まりです。男衾中出身の小山司さんをゲストランナーに迎え、盛大に開催しました。

Episode 02



浅見 けい子 さん
末野2

寄居町が合併して70年。小さい頃の思い出を振り返ってみると、印象深かったのは、昭和34年に金尾山で開催された全国植樹祭の思い出です。寄居小のみんなが校舎の北側に日の丸の旗を持って、ずらりと並び当時の天皇陛下が乗る車を見送りました。車中いる天皇陛下を見たのかどうか、今となっては思い出せませんが、最近秩父市で全国植樹祭があったこともあり、当時の様子を思い出しました。70年の間に、町はどんどん便利になっていきました。高度経済成長の中、道路はきれいになったり、歩道橋ができたり、駅にはエレベーターが付いたり…。寄居中学校があった駅の北側も様変わりし、立派な庁舎ができました。この先も地域の皆さんが協力して、より魅力的な町へと発展していくことを期待しています。私自身も町の発展のため、応援しますので、よろしく願います。合併70周年おめでとうございます。

Episode 01



吉田 昌弘 さん
武町

私は市街地で生まれ育ちました。子どもの頃を思い返すと商店街で駄菓子を買ったり、コロッケを買って食べたり、そういったことが楽しみでした。高度経済成長期ともあって、町は活気にあふれていました。毎年楽しみにしていた玉淀水天宮祭。今でも変わらず続いているということは、とてもすごいことだと思います。若い頃は都会にあこがれ、寄居町から旅立ちたいという気持ちが強くありました。大学卒業後、都内で働いていましたが、家業を継ぐために戻ってきました。生まれた町のDNAがあるのか、あらためて寄居の良さ、自然が多くて、都会にはない魅力があると感じましたね。現在、地域の皆さんに支えられながら、染物屋を営んでいます。伝統産業は、辞められる方も多く、のきなみ厳しくなっていますが、引き続きここ寄居町で、祖父の代から続いている家業を続けていきたいと思っています。